

農地利用の最適化に向け 合同研修会を開催

～気仙沼市・南三陸町農業委員会～



気仙沼市と南三陸町の両農業委員会はこのほど、合同で農地中間管理事業に関する研修会を気仙沼市本吉公民館で開いた。県農地中間管理機構の板橋武人参事と県地方振興事務所農業振興の村主栄一副班長が講演した。

両農業委員会は、昨年7月に新制度に移行。県内で最後の移行だった。農地利用の最適化の推進に関する取り組みも緒についたばかりで、手探りの活動だ。

研修では、事業の概要や集積目標面積の紹介、機構と農業委員会の連携による現場活動の手法などについて説明された。

また、気仙沼市と南三陸町は東日本大震災後に圃場整備された地区や災害復旧地区ではほぼ集積を終えていることから、今後は中山間地域での活用を重点に推進していくべきと方針が示された。

参加した気仙沼市農業委員の畠山盛信さん（70歳）は「地域の農地を守るための課題は、担い手への集積・集約化。機構と連携しつつ、国の事業を最大限活用し圃場整備や農業用水の保安全管理をしていかなければならない。そのためのお世話をしていきたい」と話した。

【記事提供：気仙沼市農業委員会】